進捗管理型校内研修と学年部長制の導入による学校マネジメントの深化【観点Ⅰ Ⅱ Ⅲ】
津久見市立津久見小学校（児童数190人 学級数10）大分教育事務所

課題

・ 「学校評価4点セット」が日常の授業や学校の自律的改善に直結するための組織づくり。
・子どもたちが「主体的な学び」を実践できる質の高い授業づくり。
・経験年数の浅い教員の急増に伴う組織的な人材育成体制の担保。

取組内容

進捗管理型校内研修

・校内研修の在り方を見直し学校評価の4点セットと直結した校内研修に刷新。
・校内研修の時間を４点セットの取組指標の進捗管理に特化させることで、全職員の自律的な目標達成マネジメントを推進。

「学年部長制」×「教科担任制」

・低・中・高学年ごとに部長職を設置し職場の心理的安全性を確保することで、経験年数の浅い教員の組織的な人材育成を推進。
・３～６年生を教科担任制とし、複数学年にまたがり授業を行う「縦持ち」を導入し、ベテラン教員の高い指導力を広げ、授業改善を推進。

<table>
<tr><th colspan="2">学年・学級</th><th>担当</th><th>国語</th><th>算数</th><th>社会</th><th>理科</th><th>外国語</th><th>図工</th><th>音楽</th><th>体育</th><th>家庭</th><th>道徳</th><th>総合</th><th>特活</th></tr>
<tr><td rowspan="3">高学年部</td><td>6年1組</td><td>A：20代
1年目</td><td rowspan="3">B</td><td>C</td><td rowspan="3">A</td><td rowspan="6">G</td><td rowspan="6">H</td><td>A</td><td rowspan="3">B</td><td rowspan="6">I</td><td rowspan="3">A</td><td>A</td><td rowspan="2">B
A</td><td rowspan="2">B
A</td></tr>
<tr><td>6年2組</td><td>B：30代
部長</td><td>B</td></tr>
<tr><td>5年</td><td>C：20代
1年目</td><td>D</td><td>C</td><td>C</td><td>C</td><td>C</td></tr>
<tr><td rowspan="3">中学年部</td><td>4年</td><td>D：30代
部長</td><td rowspan="2">E</td><td>D</td><td>A</td><td rowspan="3">F
副担</td><td rowspan="3">E</td><td rowspan="3"></td><td>D</td><td>D</td><td>D</td></tr>
<tr><td>3年1組</td><td>E：20代
3年目</td><td>C</td><td rowspan="2">F
副担</td><td>E</td><td rowspan="2">E
F</td><td rowspan="2">E
F</td></tr>
<tr><td>3年2組</td><td>F：20代
(初任者)</td><td>F
副担</td><td>D</td><td>F</td></tr>
</table>

成果

①学級満足感と向社会性の向上
➡６月実施Hyper-QUの学級満足群が、全国平均４３％を遥かに上回る「８０％」に到達。
また、全国学力・学習状況調査児童質問「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」で、肯定的回答が全国平均８０.１％を遥かに上回る「９４.１％」に到達。
②若手教員の成長による学校全体の授業力向上
➡経験年数の浅い教員が、力量のあるミドルリーダーやベテランに伴走されることで授業力が向上し、各種学力調査において２年連続で全教科全国平均以上を達成。
③職場の心理的安全性の向上
➡ストレスチェックにおける上司の支援が、全国平均７.０を上回る「９.３」を達成。また、同僚の支援が、全国平均８.２を上回る「９.７」を達成。総合健康リスクが全国平均１００を大きく下回る「６８」を達成。